

新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム(第11回会合) 議事要旨

1 日時

平成22年7月30日(金) 17時30分-18時30分

2 場所

総務省 第一特別会議室

3 出席者(敬称略)

(構成員:50音順、敬称略)

伊東晋、木村太郎、後藤幹雄、土居範久、所眞理雄、藤原洋、三友仁志、村上輝康、森川博之

(総務省)

内藤総務副大臣、小笠原総務審議官、桜井総合通信基盤局長、吉田電波部長、稲田審議官、前川総合通信基盤局総務課長、渡辺電波政策課長

(事務局)

電波政策課

4 配布資料

資料11-1 「ホワイトスペース特区」先行モデルの決定について

資料11-2 ・ ホワイトスペースなど新たな電波の有効利用の実現方策

～新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム 報告書案～(概要)

・ 新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム 報告書(案)

参考資料1 新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム(第9回会合)議事要旨(案)

5 議事概要

(1) 開会

(2) 意見交換

- 後藤構成員より、ホワイトスペースを用いた利用イメージのイラストについて説明が行われた。
- 資料11-1に基づき、土居座長より、決定された「ホワイトスペース特区」先行モデルについて発表が行われた。
- 資料11-2に基づき、事務局より、「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」報告書(案)の概要について説明が行われ、その後、意見交換が行われた。
- 主な意見は以下のとおり。

- ・ 今後は、ホワイトスペースが現実の場で有効活用されるよう、ホワイトスペース特区の活用をはじめとして、本報告書の提言が着実に実施されることが肝要である。
- ・ 既存の無線業務に対して干渉による妨害を与えないことが何よりも重要である。特にホワ

- イトスペースの主たる候補となりそうな UHF 帯である地上デジタルテレビジョン放送への影響には細心の注意が必要である。
- ・最初に干渉問題が起こると「ホワイトスペースは使えない」というレッテルを貼られかねない。
 - ・当面は「免許制」、「2次業務」、「下り専用」の条件の下で利用が進むものと想定されるが、次々とホワイトスペースの新しい活用方法が出てくる「正の連鎖」を期待している。
 - ・ホワイトスペースの活用の方は設けられたが、この新しい仕組みと世の中にある様々なニーズを結びつけなければいけない。
 - ・推進会議等でぜひホワイトスペースの活用を広めてほしい。また、Inter BEE のような場で、ホワイトスペースを活用したデモンストレーションを行うのも良いのではないか。
 - ・ホワイトスペース特区の先行モデルとして、様々な可能性を秘め、多岐に渡る分野のものを選定できた。今後も様々なモデルが出てくることを期待している。
 - ・ワンセグ、フルセグ等の新しいビジネスが開拓され、新規雇用創出や地域の活性化に役立ててほしい。また、新規参入者が現れるように、ホワイトスペースの活用についての成果発表をできる限り広く行ってほしい。
 - ・ホワイトスペースに関連した技術開発とビジネスが「両輪」として共に発展していける形が望ましい。
 - ・目まぐるしく技術革新が行われている中で、ホワイトスペースの活用においても、絶え間なく技術革新が続けられる仕組みが重要である。
 - ・ホワイトスペース関連市場の大きな成長や新たな市場の出現を期待している。
 - ・「新たな電波の有効利用によるグリーン ICT」という方向性をぜひ引き続き促進してほしい。
 - ・今後は、ぜひコグニティブのような最先端技術にもチャレンジしてほしい。
 - ・これまでの議論は、技術を提供する側やサービスを提供する側など「供給側」の論理に基づいていた。今後は、「消費者側」の視点に立ってホワイトスペースを継続評価していくことが重要である。
 - ・周波数を割り当てられることが一種の利権のようなものにならないように、電波利用が流動化する形でホワイトスペースが活用できれば良い。
 - ・「ホワイトスペース」という名称をもっと国民に親しみのあるものにした方が良いのではないか。
 - ・取りまとめられた報告書は、通信と放送の新しいタイプの融合の姿をこのホワイトスペースで実現していこうという姿勢が反映されたものになっており、今後は、これを着実に実施することが重要である。
 - ・ホワイトスペースの活用が実際のビジネス、サービスとして定着されることを目指し、今後、推進会議が進められることを期待している。
 - ・10年前の電波政策では「ホワイトスペースなどありえない。」という状況だったことを鑑みると、今回の報告書は、柔軟な電波政策になってきているということを示す、非常に大きなインパクトを与えるものだと思う。

- ・ 今後は、チャンネルスペースマップのように、情報を「見える化」することが重要である。

- 土居座長より、報告書(案)の取りまとめについては、土居座長に一任とすることが提案され、承認された。

6 今後のスケジュール

事務局より、取りまとめられた報告書については、速やかに報道発表する予定である旨、説明が行われた。

以 上